

研究者リーダーシップ・プログラム

「第2回 キャリアについて考える」参加レポート

今回は二人の講師が歩んできたキャリアが述べられ、そこから得られた教訓について共有していただいた。タイトルから想像していた「キャリア」はもう少し俯瞰的なものを考えていたので、例えば今後、大学職員として研究者を生きるのか、民間企業に務めるのか、あるいは研究者をそもそも続けるのか、といったことが話されると想定していたが、そうしていたよりも研究者としての人生に焦点が当てられていたように思う。とはいえ、講師の二人とも純粋にアカデミックキャリアのみを進んできたわけではなく、その点で参考になる話を聞いた。

私の直近の悩みはワーク・ライフ・バランスで、物理的に不可能でない限りほぼすべての仕事の依頼を引き受けることに加え、自分でも仕事を増やしており、どのように仕事とプライベートのバランスを取るかを考えていた。他方で、私にとってワーク(仕事)とライフ(プライベート)はほぼ同一なので、ワーク・ライフ・バランスの考えはいまいちしっくりきていなかった。その中、財津先生が「ワーク・イン・バランス」とおっしゃっていたのが印象的で、私にちょうど当てはまる考え方だと感じた。財津先生が説明されていた仕事の目的や家庭とのバランスとは少し違うが、私にとってはワークの中でバランスをどう取るかが重要だったので、それに名前をつけることができ、他人に説明しやすくなりそうだと感じた。

またどのような仕事を引き受け、断るかについて、講師のお二人からは、一方で様々な仕事を引き受けることで仕事やキャリアにつながったが、他方で重要でない(優先順位が低い)ものを断ることでバランスを取る、という回答をいただいた。たしかにそうした側面はあるものの、前回の東村先生は仕事はできるだけ断らないといった方針を述べており、また“connecting the dots”の考えからすると自分では重要ではないと考えていた仕事が後につながる可能性を否定しがたいことや、様々な仕事を引き受け量をこなすこと自体も重要であるため、今後も、私にとって仕事の断り方は難しい課題であり続けるだろうと思う。今後もさらに経験を積み、断り方を学んでいきたい。

(竹下昌志・名古屋大学大学院情報学研究科 研究員(PD))